

≪教科に関する調査の結果と考察≫

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を基に本校の状況を簡潔にまとめると以下のような結果となります。

【国語の調査結果にみられると特徴と現状分析】

- ①全体の結果は、千葉県の平均値を9ポイントほど上回っていること。
- ②特に、A 話すこと・聞くこと、B 書くことの正答率が極めて高く、非常にすぐれていること。
- ③短解答・記述式の正答率が極めて高いこと。

上記、3点以外には、C 読むことについても、平均より高くなっている。国語科においては、A 話すこと・聞くこと B 書くことを中心に今後もボトムアップを校内の目標に掲げていきたい。

【算数の調査結果にみられると特徴と現状分析】

- ①全体の結果は、千葉県の平均を5ポイントほど上回っていること。
- ②D データの活用の正答率が高いこと。
- ③C 変化と関係、並びに短解答の正答率が低く、課題としている児童が多いこと。

紙面の都合上、詳細は省略しているが、昨年度の結果と特質すべき領域が大きく異なっていた。学年の実態が明確に示された結果といえるのではないか。学年の実態に応じた指導の充実に繋げていきたい。

【児童質問紙紙調査の結果】

児童質問紙紙調査の結果については、概ね県の平均スコアと同等となっており、学習面・生活面共に充実していることが理解できる。

その中でも、生活習慣・学習習慣についてのポイントは全国比より高くなっている。実際の学校生活にもそれらを裏付ける言動等も多くみられ、生活態度の充実や学習の成果に繋がっている状況である。

【今後の教育活動について】

今後の目標として大きく2点が挙げられる。

- ①国語における全体のボトムアップを目指す。
- ②算数における【C 変化と関係】の指導の充実を目指す。

校内で、短期的な具体目標と長期的な具体目標を設定しながら、校内全体の指導体制として取り組んでいく。また、校内の学力調査を継続して実施し、経年分析を進めることで学年の実態に合った指導を行っていきたい。